

静岡市中部（梅ヶ島、大河内、玉川、大川、清沢地区）

地形概況

赤石山地とその前山が安倍川と大井川の流域に広がる。隆起運動と下刻作用で峡谷と曲流を形成し、急傾斜で比高の大きい谷壁斜面をもち、高位平坦面も分布する。大谷崩れをはじめ斜面崩壊も多い。谷底には運搬堆積物が多く、土石流の危険度は高い。

地質概況

赤石山地とその前山は北部から赤石層群・白根層群の赤色チャート・砂岩・泥岩と寸又川層群の地層が帯状に分布し、破碎帯や風化作用の影響が大きい。安倍川流域は砂岩・頁岩・火砕岩などからなる瀬戸川層群の山地で、大谷崩れをはじめ崩壊地も多い。

気象概況

年平均気温は 10.8°C で、標高が高くなるにつれて気温は次第に低下し、山間の盆地や窪地は、気温の年較差が大きくなる。年降水量が 3,287mm(井川)と中部山岳地帯の南斜面に位置するため、県内の平均よりもかなり多い。

災害事例 地震

- 1944 年 12 月 7 日（昭和 19 年）東南海地震 M=7.9
県中・西部で大きな被害があった。しかし当地では大川・大河内で震度 5 程度であった。
- 1935 年 7 月 11 日（昭和 10 年）静岡地震 M=6.4
有度山の周囲、特に有度山塊西縁および西南端付近がひどかった。また、有度山塊の南部で崖崩れが多かった。家屋全壊率が 10% を越えた地区は、高松 31.8%、西大谷 24.3%、東大谷 12.4%、池田 14.9%、家屋が滑り動いたものが多かった。井戸水の水位の変化が認められ、震央付近で地鳴りが聞こえた。
- 1917 年 5 月 18 日（大正 6 年）M=6.3
局地的な強震で、静岡市全域で死者 2 人(防火壁の倒壊による)、負傷者 6 人、地裂、煙突の被害があった。静岡市ではとくに煉瓦塀・煉瓦煙突の被害が多かった。
- 1857 年 7 月 14 日（安政 4 年）M=6 1/4
石灯籠数個が倒れ、土蔵の腰巻が痛んだり、梁が落ちた家もあった。また負傷者もあったようである。
- 1854 年 12 月 23 日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
全県下に被害を生じた大地震。梅ヶ島村では本村・関の沢・戸持・日影沢を中心に、山崩れ・地盤崩壊などで住居の被害が 30~80% に達した。大河内で山崩 30 箇所を生じたのをはじめ、清沢・大川で山崩れ、亀裂が生じた。震度は平野・諸子沢・坂本で 5~6、渡・梅ヶ島・長妻田・落合・小島・富沢で 5 であった。
- 1841 年 4 月 22 日（天保 12 年）M=6 1/4
駿府城で石垣 30 間ほど崩れ、久能山東照宮の堂・門など破損、石灯籠 3 個が倒れた。

- 1707年10月28日(宝永4年)宝永地震 M=8.4
全県下に被害のあった大地震。震度は平野で5~6である。

災害事例 台風

- 1982年8月2日(昭和57年)台風10号
全県下に被害あり、山間部を中心に日雨量400mm程度の降雨を記録した。静岡市関の沢橋などが流失し、道路が寸断、数日間にわたり梅ヶ島地区が孤立する被害があった。
- 1971年8月30日(昭和46年)台風23号
全県下に風水害を生じた。日雨量は清沢で334mm、大河内で287mmに達した。
- 1966年9月25日(昭和41年)台風26号
全県下特に中部で被害が大きかった。梅ヶ島で24日の日雨量312mmの豪雨であった。
- 1959年8月13日(昭和34年)台風7号
県中部以東で被害を生じた。日雨量は安倍川上流梅ヶ島で470mm、藁科川上流大川で319mmである。被害は死者1人、全壊15戸、半壊22戸、流失37戸、床上浸水164戸、床下浸水408戸となっている。
- 1958年8月25日(昭和33年)台風17号
県の中・西部で被害を生じた。日雨量は大川で303mm、梅ヶ島で421mmであった。長尾川で堤防が決壊し瀬名部落は濁流に洗われた。また辰起町で床上浸水30戸を出し大河内でがけ崩れ3箇所、藁科川で橋梁流失などがあった。
- 1948年9月16日(昭和23年)アイオン台風
全県下とくに中部以東で風水害がひどかった。大河内で日雨量370mmに達し土砂(崖)崩れを生じ、家屋へ浸水し田畑は冠水した。
- 1944年8月7日(昭和19年)
6日夜半から風雨強く、大川の雨量486mm(7日日雨量323mm)であった。
- 1922年8月25日(大正11年)
全県下特に中・東部で被害があった。日雨量は、大川で280mmに達した。静岡署管内の被害は死者1人、負傷者1人、全壊1戸、半壊8戸、流失2戸、床上浸水343戸、床下浸水4,031戸、被害田畑210ha、決壊道路6,417m、橋868m、堤防1,588m、山崩2箇所である。
- 1920年8月4日(大正9年)
県中部で大雨、大川で日雨量342mmに達した。
- 1914年8月29日(大正3年)
29日午後から暴風雨となり安倍川堤防が決壊、市中に浸水した。日雨量は大河内で474mm、大川で402mmである
- 1904年7月10日(明治37年)

8日～10日大雨。天竜・大井・安倍諸河川流域で500～700mmの雨量となった。各河川が氾濫し、田畑は悉く流失した。

- 1897年9月9日（明治30年）
死傷者8人、家屋全壊50戸。
- 1828年8月10日（文政11年）
9日より雨が降りつづき、安倍川は増水、堤防が決壊し、流域諸村府中まで浸水した。家屋は埋没・流失し、田畑の被害も大きかった。梅ヶ島は無事だったという。

災害事例 豪雨

- 1977年8月17日（昭和52年）
17日の日雨量は大河内で330mm、梅ヶ島307mmであった。被害は床下浸水・崖崩れ・道路損壊などで雨量の割に軽微であった。
- 1973年8月1日（昭和48年）
梅ヶ島の日雨量329mm。
- 1967年6月28日（昭和42）
清沢地区で床下浸水714戸。
- 1961年6月27日（昭和36）
梅ヶ島の雨量405mm。

災害事例 冷害

- 1836（天保7年）
天保7年(1836)申年には、五穀が稔らなかったが年内は飢えるものはなかった。しかし年が改っても気候が不順で、穀物だけでなく野菜まで枯死し、春から夏にかけて冷気が加わり、人々は飢えに苦しんだ。
- 1783（天明3年）
春から寒く雨の降る日が多かった。夏になっても寒さが続き、作物の不作を予想して穀物の値段が上がった。